

海南高等学校（大成校舎）

実施日時	平成30年 11月 6日（火）
参加者	生徒170名、教職員20名 計190名
実施内容	避難訓練、テント設営、マイトイレづくり、搬送法、消火訓練、外部講師による講話 等

事前の取組

- ・防災について事前学習。シェイクアウト訓練、避難経路の確認。（11月1日）
- ・保護者、一般にも参加の呼びかけ。

主なプログラム

① 防災スクール（1年生）

大地震により本校舎でもけが人が出たり、一時的に避難所的な役割を果たさなくてはならない場合を想定した訓練。

- ・テントの設営
- ・マイトイレの作成と設置
- ・炊き出し（すいとん・ α 米）と配膳
- ・仮担架の作成と負傷者の搬送
- ・消化器による消火訓練
- ・生徒による反省会、意見交換

② 外部講師による講話「南海トラフ巨大地震・津波に備えて」

和歌山で想定される地震の揺れと被害について学ぶ。

地震や津波の際の避難や対応について学ぶ。

③ 災害時の対応や災害への備え、減災について考える。（LHR）

参加者感想文（ワークシートから抜粋）

1 防災スクールを経験して

- ・災害が起こった場合、私たちでも活動できる

ことをしなくてはならない。

- ・炊き出しや配膳を経験できてよかったけど、緊急時には準備もないから大変。
- ・高校生ができることがたくさんあるとわかった。

2 講話を聞いてわかったこと、考えたこと。

- ・地震が起きた場合にしなくてはならないことがわかった。
- ・大地震はいつ起こるかかわからないから、常に災害に備えなくてはならない。
- ・今日の話を家族にも話して、少しずつ災害に備えたい。
- ・食べ物の備蓄や、家族で緊急時の避難場所の確認をしなくてはならない。
- ・緊急時の家族間の連絡方法を話したい。
- ・大災害ではすぐに自衛隊も来てくれないから、自分で生き抜く。
- ・自分だけでなく家族や、近くの人も助けられるようにしたい。

成果と課題

昨年までは消防署員の協力を得て、3月にAEDの使用を含む心肺蘇生などを学んできた。今年度はその講習に加え、1年生で防災スクールを行った。あわせて外部講師に地震・津波による災害について講話をしてもらい、生徒自らが自分の命を守り、さらに家族や地域で主体的に活動していくことの大切さを学ぶことができたと感じている。今後は、全校生徒による防災スクールを、地域

との連携をより深めた取り組みを継続して行う必要がある。

【1年生 防災スクール/全学年 講話の様子】

		
テント設営	マイトイレの制作	α 米の調理
		
担架の制作（物干し竿と毛布）	担架での搬送訓練	「すいとん」と α 米の配膳
		
消火訓練	生徒による反省会	講話「大地震・津波に備えて」